



市では、持続可能な社会を目指して^{エスディーズ}SDGsの取り組みを進めています。今号では、世界共通の17の国際目標のうち、ゴール1の達成に向けた市の取り組みや一人一人ができることなどを紹介します。



ゴール1 貧困をなくそう

貧困には必要最低限の生活水準が満たされていない「絶対的貧困」と、特定の地域社会の大多数の標準と比べて貧しい状態の「相対的貧困」があります。日本では「お金がない」などの経済的な貧困がイメージされますが、世界では「安全な水を飲む」「教育を受ける」「医療を受ける」など、人間らしい生活を送るために必要なサービスを受けることができない「絶対的貧困」状態の人が数多くいます。

ゴール1「貧困をなくそう」では、あらゆる場所において「絶対的貧困」と「相対的貧困」をなくすことなどを掲げています。

達成に向けた市の取り組み

市では、子どもの貧困対策を推進するため「子どもの貧困対策推進計画」の策定に向けて準備を進めています。このほか、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度、ひとり親家庭などの子どもに対する学習支援会の実施や医療費給付事業など、生活環境、教育、医療などのさまざまな面において、関係機関などと連携して各種支援に取り組んでいます。

【一人一人ができること】

貧困をなくすために私たちができる第一歩は、世界や日本での貧困の状態を知り、どのようなことが問題になっているのかを知ることです。次いで、貧困の解決に向けて自分が何をできるかを考えてみるのが大切です。

SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標) とは、2015 (平成27) 年に国連サミットで採択された2030 (令和12) 年までに達成を目指す世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」を基本理念に17のゴールと169のターゲットが設定されています。

※十和田市は令和3年3月に「SDGs日本モデル」宣言に賛同しています。

十和田市立中央病院地域医療連携だより 中央病院の構造設備を紹介します

第6回 (全7回)

問中央病院 ☎ 5121

当院の本館は地上6階、地下1階の建物で、大きな地震の揺れを軽減する免震構造となっています。

普通の建物は地面に直接固定されており、地震の揺れが直接建物に伝わりますが、免震の建物は、地盤と建物の間に免震装置というクッションを入れ、建物全体がその上に乗った形になっています。まるで空中に浮いた建物のように、地面と建物を浮かした状態にすることで、揺れが建物に伝わりにくくなります。

クッションにはいくつかの種類がありますが、当院では、ゴム板と鋼板を交互に積み重ねた積層ゴムのもと、十字型のレールを組み合わせたものが、合わせて100基あります。また、地面に対して建物が横に動けるように建物周囲に隙間が設けられており、1階の床が地面から切り離されているのが特徴で、当院は、大地震時には地面に対して最大55cm水平に動きます。

平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)で、本市は震度5弱を観測しましたが、この地震による免震装置の作動幅は水平変位記録計を見ると最大2.5cmほどで、建物全体のずれはほとんどなく、免震機能は確実に作動したと考えられます。

今後も点検を確実にを行い、将来にわたって免震機能を発揮することで、建物の安全性を保持していきます。



積層ゴム



十字型レール



水平変位記録計